

長良川流域文化レッドデータブック

編集・発行 NPO法人ORGAN

編集長 蒲勇介

取材/編集スタッフ

石樽聡子(長良川システムサポーター)

井上昭子(長良川システムサポーター)

熊田朋恵(長良川システムサポーター)

下山みなみ

土屋隆(長良川システムサポーター)

松枝秀乗(長良川システムサポーター)

奥村裕美(長良川システムサポーター)

河口郁美(長良川システムサポーター)

編集サポート 合同会社めぐる

デザイン ORGANデザイン室

取材協力 長良川流域文化の担い手のみなさま

- 本冊子は2020年度岐阜市ガバメントクラウドファンディングでの皆様からのご支援により制作されました。
- 世界農業遺産「清流長良川の鮎」長良川システムサポーターを中心としたプロボノ編集チームにより制作されました。

2022.8.31

長良川流域文化

RED
DATA
BOOK

レッドデータブック

「長良川流域文化」とは

連綿と受け継がれる

川と共に生きてきた、長良川流域独自の文化を、未来へ。

長良川は白山連峰大日ケ岳を源流として濃尾平野を流れ伊勢湾にそそぐ川です。2015年国際連合食糧農業機関(FAO)により「清流長良川の鮎」が世界農業遺産に認定されました。「人の生活・水環境・漁業資源」の全体を「長良川システム」と捉え、鮎を核とし、水の美しさや生態系、水を育む源流の森、流域に住む人々の水とともに暮らす伝統文化や生業など流域文化の全体性が世界的に残すべき遺産として認定されています。

川漁師は時には大雨から舟や川を守りながら日々、川とともに暮らしています。岐阜県じゅうで獲られた鮎は、仲買人が取り取り市場で競りにかけられます。競り落とされた鮎は全国で流通し、飲食店や鮮魚店を通して私たちの口に入ります。鮎の競りは日本で唯一岐阜市のみで行われています。長良川流域を中心とした川の経済が岐阜では連綿と続いているのです。

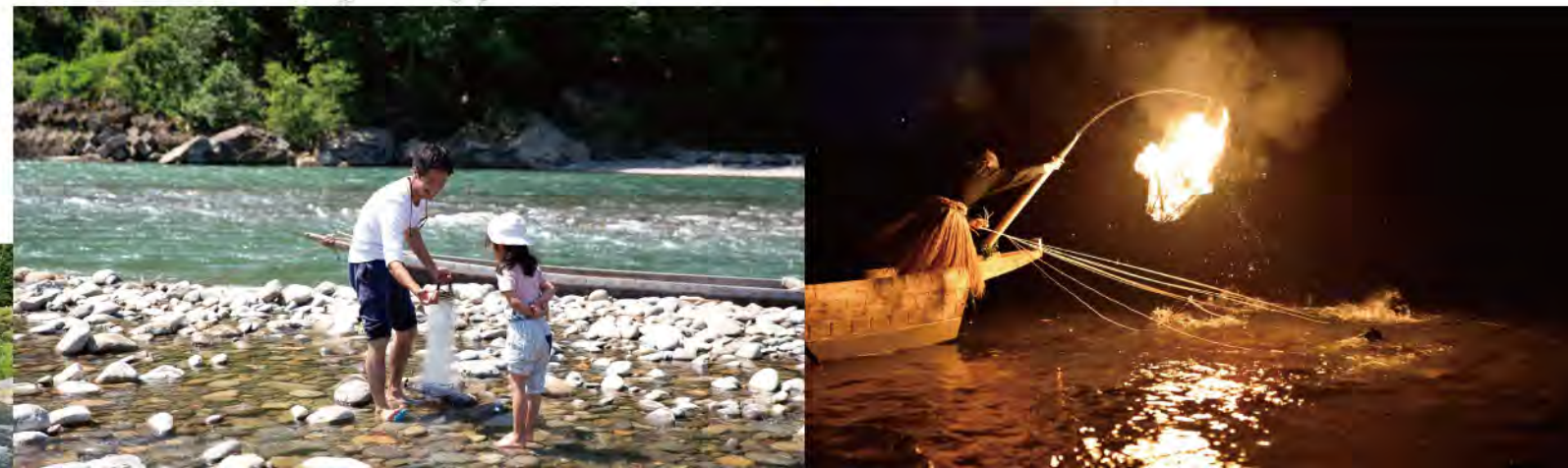
またかつて長良川は濃尾平野を縦断する水運の道でもありました。下流部の伊勢湾からは海産物が、上流部から木材や和紙が

運ばれ、川沿いには川湊を中心に町が形成されました。岐阜提灯、岐阜団扇、岐阜和傘など伝統的な産業は水運によってもたらされた美濃和紙や竹・材木があったからこそ生まれました。土岐氏に始まり、斎藤道三や織田信長、金森長近も、海と山を結ぶ交易の道・長良川の水運がもたらす経済力を礎に、今に繋がる城下町を形成しました。

風光明媚な長良川の風景を愛でる、遊興の文化も今に受け継がれています。小瀬と長良川、2つの鵜飼は漁法であると共に、もてなしや遊宴の場として、独自の芸能文化を生み出してきました。酒や食事を楽しむ船上の宴は今も昔も人々に愛されています。

漁業・工芸・芸能とこの地で川と共に生きる生活文化、その全体を「長良川流域文化」と呼びたいと思います。この長良川流域文化が、古代から令和の現在も継承されていることは世界に誇れることであり、これからの未来に繋いでいく事が、私たち流域の民の使命だと考えています。

NPO法人ORGAN 理事長 蒲勇介



工芸

和紙で広がる「用の美」

長良川の中流・岐阜県美濃市は日本屈指の和紙産地。美濃和紙は川を下って運ばれ、岐阜市で和傘や提灯になりました。未来への課題こそあれ、和紙の軽さ・丈夫さ・温かみが生む美は、今も人々を惹きつけます。



未来を遮る壁に直面する、岐阜の和紙工芸。



岐阜和傘

岐阜市は生産量日本一。職人技が凝縮されています。

岐阜提灯

お盆用、納涼用、インテリアに広く使われる、岐阜市の特産品。



こんな素敵な文化が、今、消えてしまうかもしれません。

美濃和紙

美しい水が手すき和紙を育みました。岐阜県美濃市の特産品です。



水うちわ

透けるような和紙が涼やかです。

和綴じ

美濃和紙の御朱印帳。



もし、国産和傘がなくなったら—?

結婚式や七五三など和の節目に

繊細な国産和傘は格調高い写真を残せるアイテム。いまは多くの式場や写真館が中国製を使っており、間近で美しさに感動する機会がなくなりつつあります。



写真提供:今日和

歌舞伎の舞台で

歌舞伎に映えるよう計算された和傘。東京の職人が引退し、いまは岐阜和傘を使っています。入手困難になれば歌舞伎にも影響が。



もし、国産提灯がなくなったら—?

芸術的な価値

1950年代に彫刻家イサムノグチがデザインした岐阜提灯が、近年有名ミュージシャンの舞台を彩るなど、工芸のデザイン性が評価されています。美しい状態を永遠には残せないため、形を受け継ぎ新たに作る必要があります。



お盆に

お盆に飾る岐阜提灯は、故人を灯火で偲ぶもの。これには極薄の和紙が使われます。和の文化が一つ消えてしまうかもしれません。

神事で

格式ある神社の祭礼で、神主さんが持つ和傘や提灯。外国製しか選べないのでは寂しいですね。



もし、国産和紙がなくなったら—?

世界的な名画や、バイオリン名器の修復に

前後左右に繊維を絡ませる手すきの美濃和紙は、世界一薄くて丈夫な自然素材の紙です。そのため海外で美術館の絵画修復やバイオリンの内側の修復に使われています。なくなっては困るものなのです。

和紙ならではのプロダクトの数々

和紙の特性は創造力を育みます。透けるほど薄く丈夫な「水うちわ」、軽くて細かな「折り紙ピアス」、墨が馴染む「御朱印帳」など、新旧に広がる可能性が断たれては悲しいことです。



岐阜提灯

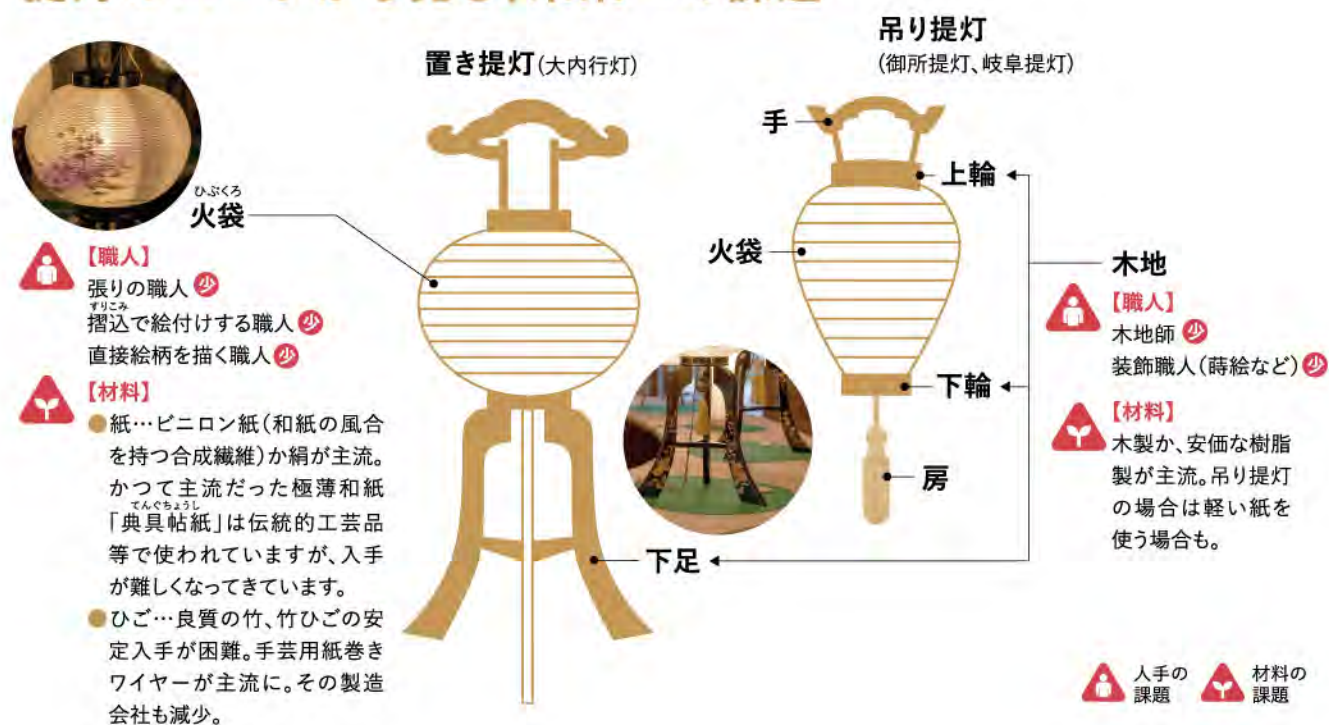
ち
よ
う
ち
ん

先祖が帰る道しるべにと灯す、盆提灯。
 極薄の和紙や繊細な職人技が、風前のともしびに。

長良川流域に良質な和紙と豊富な竹があったことから、江戸時代にいまの岐阜市で発展した岐阜提灯。1995年(平成7年)に国の伝統的工芸品となりました。秋草などの自然を描いた玉子型のスタイルが代表的です。盆提灯が有名ですが、祭礼や鶺鴒観覧船の灯りとしても使われており、ライフスタイルにあわせたインテリアに用いられることもあります。

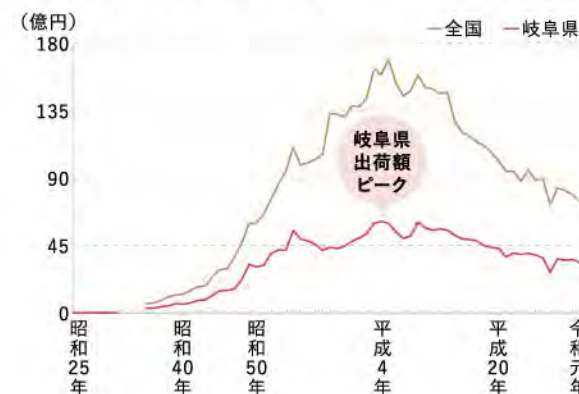
しかし提灯独自の素材入手や技術継承が難しく、存続の危機にあります。手仕事ならではの繊細で美しい提灯は海外からも高い評価を受けており、もし岐阜提灯がなくなってしまうと、風景がどこか味気なくなる気がします。

提灯のパーツから見る、未来への課題



提灯のいま

[提灯製造業出荷額の推移]



素材の課題

- 良質な竹ひごの入手が難しくなっています。節がなく、加工に適した細さ、長さが必要です。質の良い竹自体が減っています。
- 典具帖紙の制作職人が少なくなっています。
- 提灯作りに適したはげが入手困難。

市場の課題

- 提灯の生産が減ると、各素材メーカーの仕事も減少し、提灯用素材の製造をやめ、場合によっては廃業を余儀なくされます。

動き出した希望

竹ひごに変わる素材として見出された手芸用の紙巻きワイヤー。しかし長い紙巻きワイヤーを製造する会社が減少し、近年、岐阜の提灯会社4社が出資して紙巻きワイヤーの新会社を設立しました。現在は岐阜と福岡の2社で提灯用紙巻きワイヤーを製造しています。

提灯の型も、従来の木製以外に、CADデータやステンレス素材など現在の技術を取り入れて作り続けられています。

話し合ってみよう

提灯の似合うシーンは?

質のよい睡眠の為にはやわらかい灯りが良いと言われています。また提灯は日本らしさを演出してくれるものでもあります。どんな場所で提灯を使えば、市場が広がるのでしょうか。

どんな提灯があったら素敵でしょうか?

卓上タイプの提灯など新商品が作られています。どんな提灯があったらライフスタイルに合い、職人の技が受け継がれるでしょうか。



岐阜和傘

国産和傘の繊細な美は別格。
けれど制作工程が多く、いまや存続の危機に。

日常では珍しい和傘ですが、歌舞伎・舞踊・神事など和の文化には欠かせません。繊細な和傘づくりの技を残すことは、和傘生産数日本一である岐阜の大きな使命です。

岐阜和傘づくりは江戸時代初期、加納藩(現・岐阜市加納)で、貧しい下級武士の内職として発展しました。ここにはよい材料が豊富にあり、より細く美しくと各工程の職人が競いあう和傘のまちとなりました。しかし洋傘の出現とともに、いまでは数千本にまで生産数が減っています。

和傘のパーツから見る、未来への課題

和傘
和傘は構造が複雑なため、100以上の製作工程があり専門の職人が分業するのが普通。後継者不足が問題となっています。

竹骨
【職人】
竹を売る人 少
削る職人 少
糸でつなぐ職人 少

【材料】
竹林を管理できる竹屋が減り、良質の真竹が手に入りづらい。

油・うるし
【職人】
油引き・天日干し・うるしかけをする職人 少

紙
【職人】
染める職人 少
貼る職人 少 折り込む職人 少
【材料】
手漉き色和紙の安定供給が難しい。

ろくろ
【職人】
作る職人 少 あと1名
【材料】
丈夫な「エゴノキ」で作られています。エゴノキの調達は年1回の有志プロジェクトで維持。

石づき
【材料】
新しく作るには莫大な型製作費がかかり、在庫で工面している状態

糸かがり
【職人】 少
糸かがり、かっぱ付け、籐巻きなど仕上げをする職人

⚠️ 人手の課題 ⚠️ 材料の課題 ⚠️ 制作の課題



高橋和傘店の田中美紀さん

ろくろの材料を守る「エゴノキプロジェクト」

開閉部品「ろくろ」最後の職人 長屋一男さん

岐阜和傘のいま

[岐阜和傘生産数の推移]



生産者の課題

- 後進を育てるお金と時間と場所がありません。
- 一人前になるまでのお給料が出せない。
- 手本となる職人が、高齢でいなくなる。

市場の課題

- 国産和傘は幾何学美があり、緻密で丈夫です。しかし観光地や通販で数千円の和傘はほぼ中国製。粗い作りで壊れやすく、国産和傘との差は歴然です。日本の技の美を多くの人に知っていただくことも、岐阜和傘を守る一歩になります。

動き出した希望

2020年に岐阜和傘協会が設立され、骨職人、ろくろ職人の後継者育成が始まりました。育成資金を募るクラウドファンディングでは、全国の方に現状を知っていただき、約700万円が集まりました。また、2022年には「岐阜和傘」が伝統的工芸品に指定されました。

ろくろの材料に欠かせない「エゴノキ」をとる人が途絶え、生育地もいったん不明になりました。全国の和傘職人、関係者、岐阜県立森林文化アカデミーの講師、学生、地元の林業の方々のボランティアで2011年に『エゴノキプロジェクト』が発足し、年に1度、岐阜の森へ伐採に行き、継続しています。

話し合ってみよう

- 👤 **職人を育てるには?**
たくさん生産されないと職人が本業にできません。作ること磨かれる技なので、本業にできないと技術向上が難しくなります。
- 🍷 **材料を守るには?**
素材の代えがきかないので、材料が手にはいらないと和傘作りが続けられません。
- 🗺️ **国産和傘の良さを知ってもらうには?**
中国製ではなく国産の「和傘」を見る機会を多くの方に増やしましょう。

美濃和紙

一枚の和紙を漉き続けるために、次の一手を講じてきました。

長良川の中上流・岐阜県美濃市^{みの}周辺で作られてきた美濃和紙。奈良の正倉院に残る日本最古の和紙の伝統を受け継ぎ、作り続けているのが美濃和紙です。

戦後に紙づくりの機械化が進むと、手漉き和紙の生産も減りました。

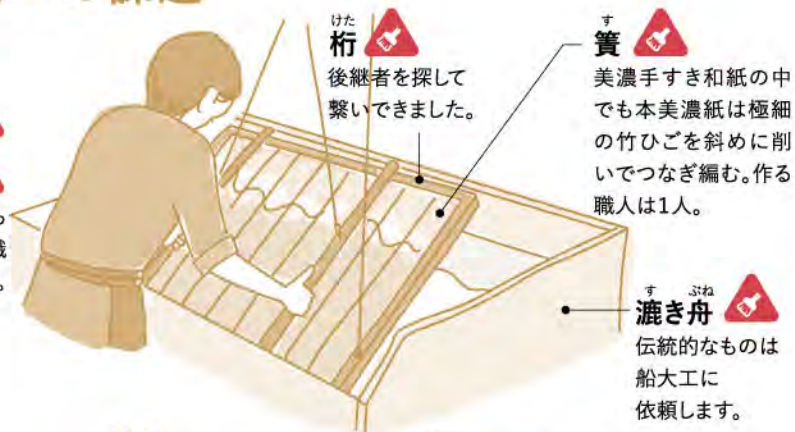
しかし、美濃和紙を材料とする工芸品がたくさんあります。世界の名だたる博物館や美術館で、古文書や絵画の修復に本美濃紙が用いられています。美濃和紙は水中で繊維を縦や横にゆらして重ねるため、薄くても柔らかく丈夫で長持ちするのです。和紙作りの技術を千年のちまで残すために、関係者たちは動き続けています。

和紙作りから見る、未来への課題



紙すきは工程のごく一部。楮の皮をはぎ、水にさらし、煮て、手作業でちり(ゴミ)を取り、繊維を細かくします。なかでもちり取りは根気が必要です。

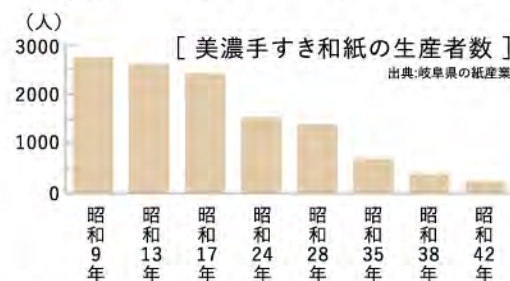
[美濃の和紙の区分け]



⚠️ 人手の課題 ⚠️ 材料の課題 ⚠️ 制作の課題



美濃和紙のいま



職人の課題

● 和紙すきだけで生計を立てられる人はわずかです。本美濃紙は保存会があり職人の育成を行なってきましたが、職人の数は平成になっても減り続けていました。1969年(昭和44年)に国の重要無形文化財に、2014年(平成26年)にはユネスコの無形文化遺産に登録されています。美濃市も1994年(平成6年)に「美濃和紙の里会館」を開館し後継者育成を後援しています。

動き出している希望

全国の和紙職人や原料生産者が、地域や業種を超えて連携しています。

- 用具職人…全国手漉和紙用具製作技術保存会(事務局高知県)を通して、篋・金具・紙屋刷毛などの職人を育成し続けています。
- 原料の楮…本美濃紙の指定原料であり、最上品質の「太子那須楮」(茨城県太子町)は保存会が設立されました。美濃市の和紙職人も楮の芽かきや刈入れに訪れて、思いを共有しています。

話し合ってみよう

和紙の新しい使い方は?

和紙全体の需要が減っています。使う量を増やす工夫も必要です。たとえば機械すきの和紙は通気性と丈夫さを活かして有名な衣類防虫剤の袋に使用されています。

原材料を守るには?

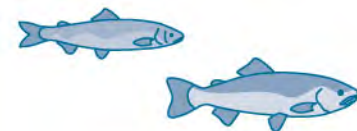
楮の産地も高齢化や人材不足に悩んでいます。全国の和紙職人が、夏は芽かき、冬は刈り取り、皮むきを手伝っています。多くの人を巻き込むにはどうしたらよいでしょうか。たとえばほかの和紙原料「ミツマタ」は、花の時期に群生地が観光客に解放されているところがあります。



漁業

川漁師がいる
という誇り

遊漁券を買って釣りを
楽しむ人とは別に、長良川
にも専業・兼業の川漁師
がいます。川漁師は漁協
に登録し、みんなで自然
環境を守っています。観光
として人気の「鵜飼」も川
漁の1つ。自然と食文化の
豊かさがそこにあります。



鵜飼

長良川鵜飼の風景。毎年、岐阜市と関市で5月から10月にかけて、ほぼ毎夜行われます。水鳥の鵜を操り、鮎をとらえます。



近くにも、多くの市民が知らない
長良川の魚のおいしさと川漁師のこと。

もし、鵜飼が
できなくなったら—?

「岐阜といえば」の光景が

岐阜の風物詩、長良川の鵜飼も川漁の方法の1つです。宮内庁式部職鵜匠の存在が続くとしても、昨今の気象異常で川の増水やその後の流れの変化、濁水などで開催に影響が出ました。鮎の産卵時期にも温暖化が影響します。もし鵜飼ができなくなれば、1300年の伝統を誇る技が継承されなくなります。また、観光の目玉であり、地域の人々のアイデンティティの一つが失われます。



いま多方面から厚い壁が迫っています。

もし、川の魚介類が捕れなくなったら—?

観光の目玉、
岐阜の味が

長良川流域に来た観光客が、食事のメインに当地の味を求めたとき、飛騨牛もよいですが、鮎などの川魚は、景色とあいまって旅を印象深くしてくれます。市民にとっても、スーパーで当たり前前に鮎が並び、川魚の佃煮が売られているのは、この地に川魚の食文化が根付いている証拠。養殖や他県産の鮎も売られていますが、長良川の川魚が食べられなくなれば、食文化そのものが消えるかもしれません。



5月に遡上する
サツキマス



モクズガニは
上海ガニと近縁種で美味。

もし、川漁師が
いなくなったら—?

環境と伝統の
守り人が失われる

川漁師は、漁協に登録し、それぞれに持ち場を決めて魚を獲っています。鮎が孵化できる環境をつくり、洪水で流れてきた大木や自転車などを川底から撤去し、上流の山に木を植えて川を豊かにし、密漁者が環境を無視して機械で根こそぎ獲っていくのを見張るなど、川の守り人の役割を担っています。伝統の漁法や漁具も存在します。しかし川漁師を仕事にすることが難しくなり、漁師の数は減り続けています。

秋、産卵のため川を下る鮎を捕まえる「瀬張り網漁」。1年で鮎が大きく育ち、卵をはらんでいます。



川舟

木製の舟は、木製ならではの利点が多くあります。魚に気づかれないように静かに移動をしたり、逆に舟に槳を当てて音を出し魚を追い込むこともできます。木がしなることで流れの強さを吸収・分散させたり、ナイロン製の漁網が痛まないことも大きな特徴です。



釣り竿

手作りの郡上竿。漁具にも文化があります。



遊漁者(釣り人)

釣り人に愛される清流と川魚。 遊漁券の収益で川が守られています。

長良川には天然遡上アユ、サツキマス、アマゴ、イワナ、ウナギ、モクズガニなど多くの生き物があります。抜群の水質から日本三大清流のひとつとも言われ、流域は世界農業遺産*1に登録されています。日本中から多くの釣り人が訪れて、長良川に魅了されます。上流ではブランド化されたおいしいアユ「郡上鮎」が釣れます。

郡上漁業協同組合では、長良川で釣った鮎であれば誰からでも買い取り、市場に流通させています。漁協組合員だけでなく遊漁者*2からも買い取りを行なうシステムは全国でもまれで、釣り人に喜ばれています。

*1 世界農業遺産(GIAHS):世界的に重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域を、国際連合食糧農業機関(FAO)が認定する制度
*2 遊漁者(ゆうぎょしゃ):漁協から短期的な釣りの権利=遊漁券を購入して釣りを楽しむ人。遊漁券を買わない場合は密漁となります



おとりを使う友釣り。アユがかかる手ごたえに心躍り、釣りあげる達成感があります。(釣り師:白滝治郎さん)

アユの友釣りは長い竿を操りまです。男女を問わず人気のレジャーです。(釣り師:鮎川ナオミさん)

いいコケ(珪藻)を食べると天然鮎は黄色くなり、背中に肉がつきます。

東京に出荷され、高値で取引される郡上鮎。

遊漁者から見る、未来への課題

遊漁者

友釣りをする人の高齢化が進んでおり、遊漁者が年々、減少しています。



川の変化

長良川本流にダムはありませんが、下流に河口堰、支流に3つのダムがあります。また温暖化や上流の落葉樹減少などで川の栄養素不足や増水・濁水などの環境変化が起こり得ます。

人手の課題 制作の課題

伝統漁具



郡上竿 職人1人。制作休止中。長良川の急流であまごや鮎を釣るために適した構造。

郡上魚籠 職人1人。釣ったあまごを傷めずに入れておける。

遊漁者のいま



担い手の課題

●川を守る資金として 漁協の運営費において軽視できないのが遊漁券収入です。漁協は魚の放流、産卵場の整備、川の清掃などを行ない、豊かな川や釣り人が楽しめる場を維持しています。遊漁者を増やすため、釣りの楽しさを多くの人に知ってもらう必要があります。

道具の課題

●伝統漁具 遊漁者が減ると、長良川の釣りに適した「郡上竿」や「郡上魚籠」の伝統技術や知恵も衰退してしまいます。郡上竿職人は1人で、高齢のため制作しておらず、後継者がいません。郡上魚籠は地元の青年1人が引き継いでいます。

動き出した希望

郡上鮎のブランド化

郡上漁協では、川漁師・遊漁者から購入した鮎を東京豊洲市場へ直送、高価格販売を始めました。

新しい釣具の開発

長良川の鮎釣りに適した伝統的な郡上竿をカーボンで再現した鮎竿が釣り人に人気です。

話し合ってみよう

遊漁者を増やすには?

川に親しみ、生き物や環境に興味を持つことは、釣り人を増やすだけでなく、子どもの教育にもおすすめです。研究者など川の守り手を育てる第1歩にもなります。色々なアイデアを考えてみましょう。

- あゆパークで遊ぶ…2018年オープン「あゆパーク」(郡上市白鳥)は、子どもも大人も川に親しむことができる場所です。長良川の紹介、アユの友釣り、アユの塩焼き体験などができます。
- 川釣りに挑戦…手軽なフナ釣りやシロハエ釣り、管理釣り場での釣りで楽しさを覚え、アユの友釣りにステップアップしてみましょう。



↑川をテーマにしたあゆパーク

川漁師

長良川が誇るおいしい川魚料理の文化は川漁師が魚をとることとなりたちます。

長良川は都市に接した中流でさえ遊泳が可能なくらいに水が澄んでおり、良質な川魚がとれます。岐阜の味・天然アユ料理として旅館やお店を出てくるものの多くは、川漁師(漁協組合員*)が獲ったものです。食通を唸らせる、サツキマス、アマゴ、モクズガニなども川漁師がとっています。川漁は大規模に行えないので、かえって古風な漁法を残しており、漁協が漁場と可能な漁法を漁師ごとに割り振っています。しかし、川漁師が減りつつあります。

※ここでは漁業協同組合員を川漁師と呼んでいます。しかしながら、高齢化に伴い現在は漁を辞めている人も多く、本業として漁をしている人は長良川全体でも一桁です。その他の川漁師は兼業・趣味で魚を獲っている人達です。



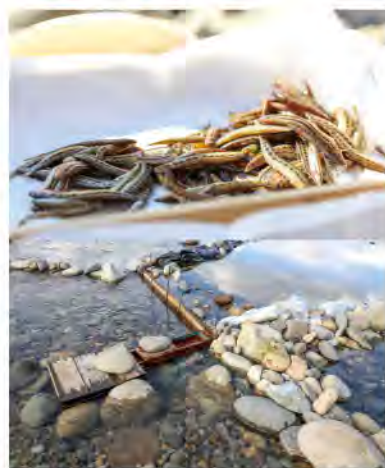
市民も驚くほど街の近くで、おいしい川の恵みがとれます。

産卵する鮎を狙ってモクズガニが現れます。

川漁師がアユの孵化を助ける「アユの種付け」活動

魚苗センターに運ばれた受精卵からアユの仔魚が生まれます

川漁師から見る、未来への課題



登り落ち漁(初夏～)

ヨシノボリなどの小魚も、アユと同時期に川を上ります。その習性を利用し、石で作った流れに誘導し、木箱に落として獲ります。



友釣り(夏)

アユが縄張りをもつ習性を利用し、生きたおとりアユを釣り糸につけて泳がせ、突っかかってきたアユを針にかけます。遊漁者はもちろん、川漁師も行なう定番の方法。

コロガシ、ガリ(秋)

たくさんの針をつけた釣り糸を流し、鮎をひっかけて釣る漁法。可能な時期が決まっています。

夜網漁(夏～秋)

夜、休んでいるアユを光や竹棒の音で驚かし網に追い込みます。

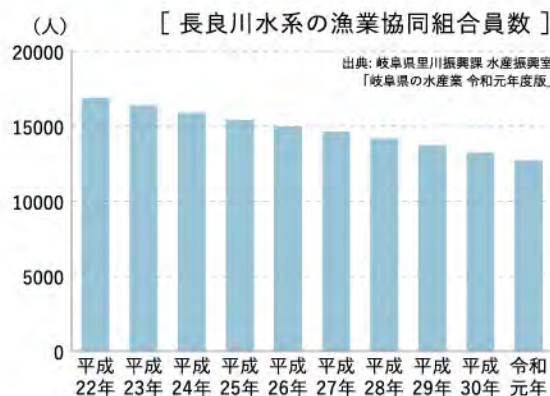


瀬張り網漁(秋)

産卵のため群れをなして川を下るアユを狙います。川幅に張ったロープが水面を叩く音と、川底の白色に驚いて、アユの群れが止まったところに手投げ網(ていな)を打ちます。



川漁師のいま



担い手の課題

- 漁協組合員は、漁協の一員として川を守る活動を行なっています。活動の中には、重い流木の撤去、大型水鳥「カワウ」の駆除(異常増加して魚を食べつくし、フンで木を枯らします)などもあり、人手が必要です。
- 長良川ならではの伝統漁ができなくなれば、道具を作っていた職人も廃業します。

市場の課題

- 魚を市場に卸す人がいなければ、川魚の食文化が伝えられず、食べたいと思う人も減る悪循環になります。

動き出した希望

天然アユを守る種付け

天然アユは中流でふ化し、栄養豊富な海に下ります。稚魚はおなかの養分がなくなる前に海に到着できないと死んでしまいます。長良川漁協は産卵前の鮎から採卵し、受精させ、水槽でふ化した鮎を河口に戻す作業を数十年続けています。

岐阜県魚苗センター(美濃・関)

上記種付けで仔魚をふ化させたり、放流できる若い成魚にまで育てたりする魚苗センターが稼働しており、年間数十トンの鮎を出荷します。

話し合ってみよう

川漁師と魚と川のサイクルを守るには

多様な方法を考えてみましょう。

- 川漁師の仕事を知る…長良川で川漁師と漁舟に乗る少人数体験ツアーが人気です。
- 天然アユを味わう…養殖とはまた違うおいしさを体験しましょう。魚の調理教室もありますし、スーパーによっては追加料金で調理もしてくれます。



漁船体験



アユの串うち体験

鶺鴒

全国の鶺鴒うかいで唯一、長良川うしゅうの鶺鴒うかいだけが国家公務員。
1300年の伝統を持つ鶺鴒うかいに迫る、課題とは。

夜のかがり火のもと、鶺鴒うしゅうが手綱あゆを操り、水鳥うの鶺鴒あゆをとらせる伝統漁法「鶺鴒うかい」。
岐阜市の長良川鶺鴒おせと関市の小瀬鶺鴒こりょううかい、計9名の鶺鴒うかいは、歴史の長さから、全国に点在する鶺鴒うかいで唯一宮内庁式部職ごりょううかいが与えられ、皇居に献上する鮎あゆを獲る「御料鶺鴒ごりょううかい」を行っています。
年8回の「御料鶺鴒ごりょううかい」以外の日は観光客が屋形船から間近に見ることができ、岐阜市と関市の観光の柱となっています。しかし近年、さまざまな要因が鶺鴒うかい関係者を悩ませています。

鶺鴒うかいから見る、未来への課題

⚠️ 人手の課題 ⚠️ その他の課題



▶ 鶺鴒うかいの視点

鶺鴒うかい舟 ⚠️
鶺鴒うかい舟を製作できる人は2名、共に高齢化。

天候・河川環境 ⚠️
鶺鴒うかい中止日の増加。

観光客 ⚠️
乗船者が減り、赤字運営。

船頭 ⚠️
技術を持つ船頭が高齢化しています。鶺鴒うかい開催期(5月～10月)の夜のみ、人数も流動的なので労働時間と収入が課題です。



◀ 観光の視点



鶺鴒うかい観覧船に乗り、川面に近づいただけで岸とは異なる静けさと涼しさを感じます。



長良川鶺鴒うかいは、6人の鶺鴒うかい匠が次々に魅せる華やかさがあります。



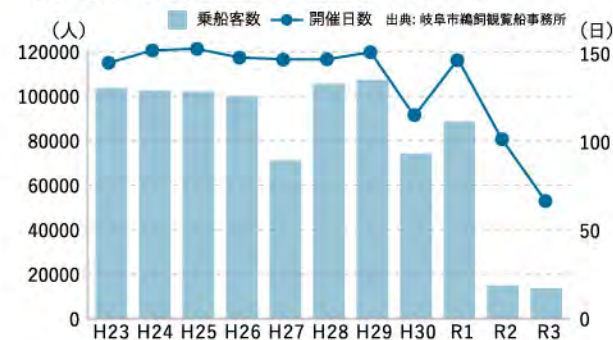
小瀬鶺鴒うかいは、街灯りのない静かな世界でタイムトリップしたように没入できます。



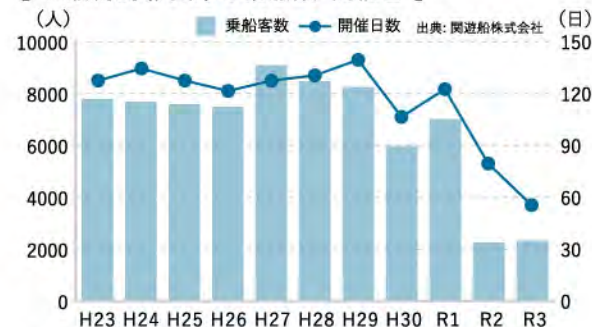
鶺鴒うかいの鶺鴒うかいは、鶺鴒うかい匠と暮らし、15～20年ほど生きます。

鶺鴒うかいのいま

[長良川鶺鴒うかい(岐阜市)の乗船数・開催日]



[小瀬鶺鴒うかい(関市)の乗船数・開催日]



観光の多様化やコロナ禍が追い打ちをかけ、乗船者が減っています。また近年は急激な増水が増え、開催日が減っています。内堤防の損壊や観覧船が流される被害もありました。逆に水位が低すぎる日もあります。

船頭不足も課題です。技術を持つ船頭が高齢化しています。鶺鴒うかい開催期(5月～10月)の夜のみ、人数も流動的なので労働時間と収入が課題です。

動き出した希望



- 船上ではなく川岸の棧敷席や遊歩道から鶺鴒うかいを楽しむイベントが高評価を得ています。
- 岐阜市観覧船造船所の周辺を、長良川と鶺鴒うかいに親しむことができる公園に整備するまちづくり計画が動いています。

話し合ってみよう

- 🗨️ **鶺鴒うかいの良さを知ってもらうには？**
地元民が鶺鴒うかいに誇りや愛着を持って、生活に鶺鴒うかい観覧を取り入れたり、他県の人に語る事ができれば、大きな力になります。そのためにはどんな方法があるでしょうか。
- 🗨️ **鶺鴒うかいに関わる人を守るには？**
関わる人が仕事としてなりたつためのアイデアを考えてみましょう。たとえば昼間や鶺鴒うかい期間外に観覧船を活用したイベントが行なわれて、盛況になっています。

川舟

川舟の注文がないと、 長良川独自の造船技術が活かせません。

昔ながらの木造和船には風土・歴史・使う人によって様々な形があり、長良川にも独自の川舟作りがあります。舟大工は家大工とは異なる技術を持ち、川に浮く舟はもちろん、職人によっては和紙をすく「漉き舟(紙舟)」、郡上八幡の共用水場「水舟」なども手掛けています。

しかし1970年頃から川舟はFRP(繊維強化プラスチック)製が主流となりました。また川漁師が減ったことで、漁舟の製作依頼が減っています。舟大工の高齢化や跡継ぎ問題も悩みです。

※ここでは、小型で手漕ぎできるものを「舟」、大型のものや一般的な名称のものを「船」と書きわけています。

長良川の伝統的な舟の例

上流から下流の流れや川幅の変化、目的によって形が異なりますが、長良川流域の造船技術を土台にしているため、共通点が多くあります。



よ 四つ乗り(上流の川漁や運搬に使用)
支流用5m、本流用7~8m。前は三角、後方は四角で、狭い急流に適しています。



りょうぶね 漁舟(中流の川漁に使用)
9~11m。両端が三角。木造舟は石にあたった音が響かず、魚が逃げにくいといえます。



たぶね わじゅう 田舟(輪中の田で使用)
5m。両端が四角。海拔が低い土地柄、かつては堀田農業に使用したほか、水害避難や川漁にも使用しました。



うぶね 鶺鴒舟(鶺鴒で鶺鴒匠が使用)
13m。漁船と同形状ながら、3人乗りのため大きく、両脇は内側に湾曲気味。かがり火の棒が回るため、穴を補強しています。



うかい 鶺鴒観覧船(鶺鴒見物客の屋形船)
木造では15、20、30人乗りがあります。前は三角、後方は四角で、船頭が立つ踊り場が広く、両脇は幅広で外側に開き気味。



川船のいま



担い手の課題

●鶺鴒で鶺鴒匠が乗り込む「鶺鴒舟」を造れる舟大工は岐阜県にベテラン2名のみ。「鶺鴒観覧船」の造船・操船技術は岐阜市重要無形民俗文化財です。長良川に合わせ発展してきた技を次世代に伝える必要があります。

市場の課題

●漁舟の需要が減っています。また、鶺鴒舟の新たな需要は長良川の鶺鴒匠9名全体で多くても年一艘程度です。仕事がなければ、舟大工をなりわいにできず悪循環になります。現在使用中の鶺鴒舟も老朽化が目立ちますが、舟大工が減ると修繕がままなりません。

動き出した希望

- 2017年、岐阜県立森林文化アカデミーと東京文化財研究所の共同研究として、鶺鴒舟の造船過程を詳細に記録するプロジェクトが行われました。さらに2021年、ベテランの舟大工の技術指導を受けながら、観覧船造船所の舟大工が鶺鴒舟の造船に初挑戦しました。今後は、岐阜長良川鶺鴒保存会が中心となって、鶺鴒舟の造船と舟大工の後継者育成を継続していくこととなります。
- 岐阜市では、鶺鴒観覧船造船所付近を含む「かわまちづくり」の計画を策定し、「川舟スクールの開校」や「川舟ラボの開講」等の施策が示されています。

話し合ってみよう

川舟造りを活かすには?

舟の需要がないと、技術を受け継ぐことが難しくなります。どんな方法があるでしょうか。川漁をする人を増やす方法や、川舟での周遊体験・川舟レースなど、レジャーでの舟のニーズを考えてみましょう。

また、温泉旅館で足湯の桶として使われたり、市立図書館のユニークな読書スペースとしても川舟が使われています。全国の舟大工や宮大工などとの連携も考えられます。川舟の技術を活用するアイデアを自由に考えてみましょう。



美濃和紙の漉き舟を作る舟大工の那須清一さん。



水を有効に使う郡上八幡の伝統、水舟。舟大工の田尻浩さん作成のもの。

芸能

長良川に浮かぶ「お座敷」

長良川流域には、暮らしに根ざす祭りや踊りなど、多くの伝統芸能があります。

ここでは、芸能がなりわいとなっている「船遊び」に着目してみます。長良川の夏の風物詩「鵜飼」を、芸舞妓とともに楽しむ文化です。歴史上、政治や文化の潤滑油ともなってきました。

鵜飼観覧

舞妓、芸妓さんと鵜飼観覧船に乗り、鵜飼を眺めます。

長良川の鵜飼を究極に楽しむ、船遊び。
岐阜の文化を全身で味わうおもてなし文化が

船・川漁・魚料理・和傘・提灯など、 長良川の伝統文化が結晶化

岐阜の「船遊び」は、岐阜市と関市の観光の目玉である「鵜飼」と深いつながりがあります。夏の夜の長良川に屋形船で繰り出し、鵜飼の技を間近に観るとともに、食事、お酒、芸舞妓の舞や簡単なゲームを楽しむ宴席です。

鵜飼は1300年以上の歴史があり、近代以降は長良川の水運で栄えた町衆の楽しみや客人へのもてなしとして発展しました。昭和後期ごろまでは、鵜飼シーズン中はほぼ毎日、芸舞妓が鵜飼観覧船に同乗する様子がみられました。

「船遊び」は、漁業・工芸・芸能の粋を集めた総合芸術です。川漁のひとつである鵜飼、船、鮎をはじめとした川魚。芸舞妓さんに受け継がれる特有の装いや舞、唄。風情を添える和傘や提灯。岐阜の文化を存分に味わい、人の和をとりもつ船遊びは、歴史の重要なシーンであまたの要人に愛されてきました。



江戸時代中期の船遊びが描かれた屏風絵
(岐阜市歴史博物館所蔵)

舞と唄、提灯

鵜飼の前後には、岐阜ならではの舞や、客との遊びが行われます。船には提灯がとまります。



装い

芸舞妓さんは船遊び独自の帯結びを行ないます。



地酒と宴遊び

地元の酒のコンシェルジュとして、また、お酒を使った伝統的な遊びでおもてなしします。



川魚料理

川を眺めながらいただく鮎はより味わいを増します。



和傘

芸舞妓にとって和傘は必需品。



ほとんど知られずに消えてしまうかもしれません。

もし長良川の船遊びがなくなったら—?

独自の舞や唄、装い

舞妓には、船遊び用の帯結びがあります。また、鵜飼の光景を舞にした小唄「かざりをるぼし」も船遊びに興を添えます。岐阜ならではの唄というだけでなく、明治初期に元の歌を詠んだ山田顕義(明治政府初代司法大臣)の岐阜での出会いと、のちの突然死の物語を知ると、鵜飼を見る目がより深まります。こうした文化の伝え手も、伝える場所も、存続の危機にあります。

芸舞妓の活躍の場

船遊びという活躍の舞台がなくなれば、それだけ芸舞妓の仕事が減ります。芸舞妓は接待や華を添えるだけの存在ではなく、お茶や舞や鼓など数々の伝統文化の稽古に励み、現役時代はもちろん引退してからも日本文化を担っている人が多くいます。顧客にとっても、さまざまな和の文化を体験する機会が減ることになります。



昼間の川で舞妓さんのたてるお抹茶を楽しむカフェ船。

船遊び

伝統のおもてなしで鵜飼観覧。
貴重な情景が消えつつあります。

長良川の「船遊び」は地元の人にさえあまり知られていません。工芸・漁業・芸能など多様な要素を含むだけに、存続への課題もまた、多く含むのです。

船遊びに見る、未来への課題



芸舞妓と船遊びのいま

芸を楽しめる客が減り、芸舞妓が減っています。気候変動や感染症で鵜飼自体にも逆風が吹き、船遊びの開催日も減っています。



動き出した希望

岐阜市には2つの検番(芸舞妓の稽古や手配をするプロダクション)があり、お座敷や船遊び以外にも芸舞妓の活躍の場を広げています。

2019年には岐阜市で、川岸に設けた観覧席から長良川鵜飼を楽しむ「鵜飼棧敷」の実証実験が行われました。客にとっては新しい楽しみ方であり、芸舞妓の活躍の場が広がります。

話し合ってみよう

船遊びの文化を残すには？

認知を広げ、興味を持ち、参加者を増やすとともに、船や和楽器など消えそうなものを守ることも必要です。

芸舞妓が職業として続くには？

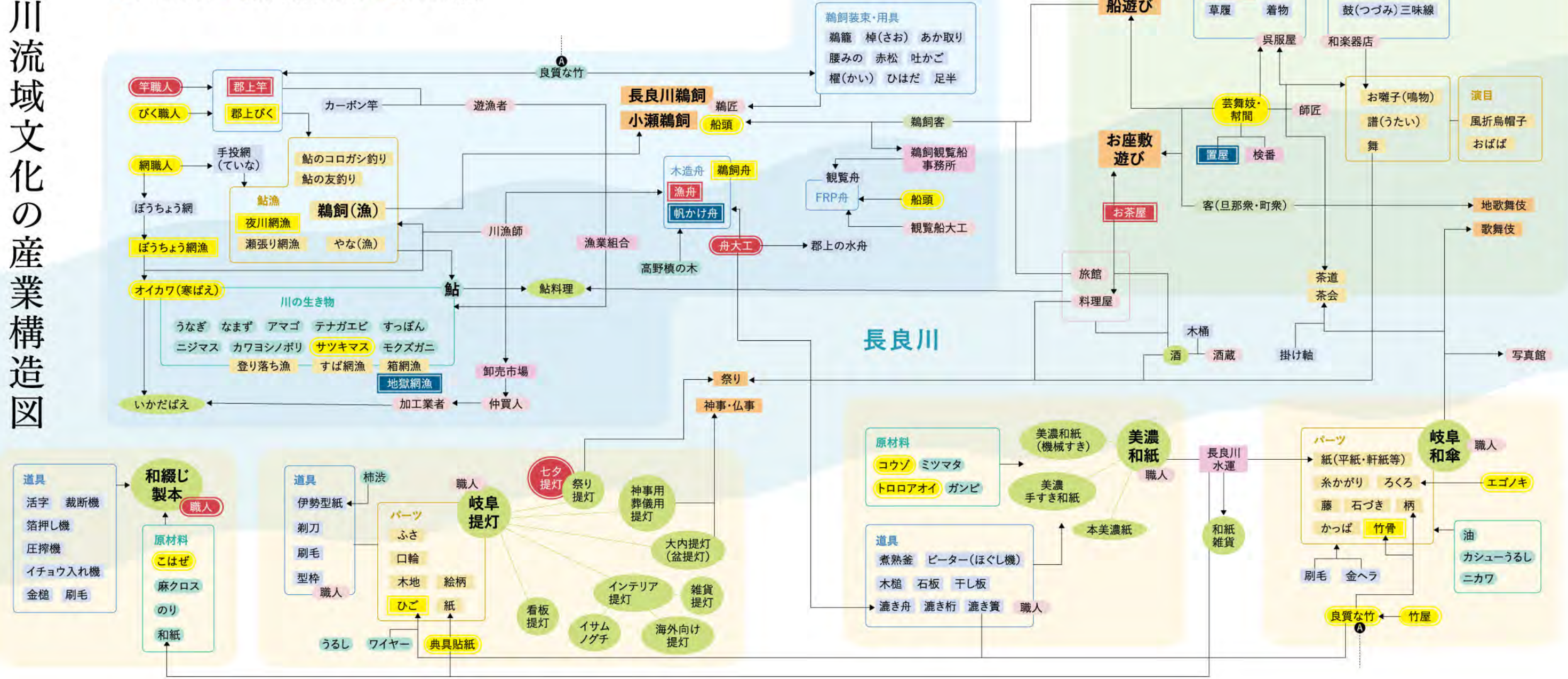
まず広く知ってもらいにはどうしたらよいでしょうか。岐阜の芸舞妓について図書館や動画サイトで調べられます。お座敷以外にも、舞の披露や和楽器の教室など芸舞妓や遊宴文化に触れる機会があります。大人数の宴席やイベントであれば客一人あたりの出費も抑えられます。学校や施設での伝統芸能体験会など、シーンを考えてみましょう。



長良川流域文化の産業構造図

長良川流域の伝統産業は繋がっている

■=すでに失われた ■=数が少なく先行きに不安 ■=担い手が1名(軒)



No.1

沖縄県

新しい需要をつくり伝統を
継承していく

サバニ帆漕レース

沖縄には伝統的な木造漁舟「サバニ」があります。現在漁の現場ではモーター付きの舟が普及し、サバニも岐阜の木造漁舟と同じく危機的な状況にありました。しかし、2000年からは伝統文化や技術の継承を目的とし「サバニ帆漕レース」を毎年開催。参加者も年々増え、舟大工も増えています。

サバニレースとは

サバニレースは座間味村から那覇市までの19海里（約35.2km）を帆で風を受け、人が櫂を漕ぎ、自然の力だけで走ります。沖縄サミットが開催された2000年に日本の海の文化をアピールし、残していこうという目的でスタートしました。第1回は地元16チームの参加でしたが、第20回には全国から36チーム、500人以上が参加する規模になりました。

新しい需要をつくり舟大工も増加

サバニレースには舟を借りて出場することもできますが、自分の舟を持ちたいというチームがだんだんと増え、サバニ大工への発注も増加しました。また、サバニを使ったツアーなど、レース以外にも新しい需要が増えています。サバニ大工を志す若い担い手も増え、30代・40代の舟大工も活躍しています。



サバニ帆漕レース/PHOTOWAVE



サバニ帆漕レース/PHOTOWAVE



写真提供:糸満帆掛サバニ振興会



写真提供:糸満帆掛サバニ振興会

No.2

高知県

職人育成のための学校型のしくみ

土佐打刃物 鍛冶屋創生塾

高知の土佐打刃物は自由に形を作る「自由鍛造」が特徴で、^{おの}斧や^{なた}鉋は農林業家たちに長年愛されてきました。しかし時代とともに農林業も機械化が進みます。平成12年には162社あった鍛造業者も、平成28年には68社と半分以下になりました。「生産者の高齢化問題」は大きな要因です。土佐打刃物の技術を後世に伝えていくためには、後継者育成が急務となりました。

後継者育成の理想のかたちとは

師匠に弟子入りして技を学ぶ。職人の世界ではこれが通例となっています。土佐打刃物でも平成27年からは「伝統的工芸品産業等後継者育成対策事業」の制度で受け入れる事業者と研修生に助成金を出すなどして従来に近いかたちの後継者育成をしてきました。しかし伝統工芸の継承、高齢化（後継者）問題を抱えているなかで研修者受入事業を推進してきたものの後進がうまく育たない等の問題もあり、その打開策として後継者育成施設の必要性が高まったのです。

鍛冶屋創生塾

平成28年に高知県土佐刃物連合協同組合（以下刃物組合）が後継者育成施設の構想を打ち出します。事業主体は刃物組合ですが、香美市と高知県といった行政もともに動きました。平成30年からは準備が一気に進み、用地や設備の手配、運営方法の情報収集などを経て令和元年11月に開塾しました。ここでは2年間の研修を受け、鍛冶屋の基礎を学びます。1期生は10名の応募から3名を受け入れました。その1期生は令和3年10月末に無事卒業、現在（令和4年6月）、2期生3名（応募8名）が研修を受けています。



ここまで、漁業・工芸・芸能の3つの視点から長良川流域文化をみてきましたが、みなさんは何を感じ、どんな思いを持ちましたか。

本誌のまとめとして長良川流域文化に深く関わるお二人にお話をうかがいました。川漁師の平工顕太郎さん、岐阜県立森林文化アカデミー教授の久津輪雅さんに本誌の編集長である蒲勇介がお話を聞いています。データをご覧いただきながら、長良川流域文化の今とこれからについて、語っていただきました。

行政の公的支援と民間による市場形成 両輪で守っていく取り組みが今、求められている

岐阜県立
森林文化アカデミー 教授 久津輪 雅



NHK報道ディレクターを経て、飛騨高山にて木工を学んだ後、イギリスで家具職人として働く。帰国後、現職。伝統的なものづくり文化の継承と新しい文化の創造に力をいれている。

川漁師
結の舟代表 平工 顕太郎



現役漁師。長良川に4艘の舟をかまえる。現在は岐阜で唯一、漁舟を活用したプライベートな舟旅を提供(長良川おもてなし信長紀行賞、観光のひかり賞、ほか)。

NPO法人ORGAN理事長
長良川おんぼくプロデューサー 蒲 勇介



郡上市生まれ岐阜市育ち。15年に渡るまちづくりの活動と、民族文化映像研究所・姫田忠義氏との出会いから長良川流域と岐阜の基層文化に広く深く眼差しを向け続けている。

蒲勇介(以下蒲) データやヒアリング結果からどう感じられますか？

平工顕太郎さん(以下平工) 課題が見える化されたのはありがたいです。舟の材料に関して、長良川ではコウヤマキという木を使うのですが、最近は市場に流通しないのです。このような課題は個人レベルではなく組織的に動かないと解決できないのでは。エゴノキプロジェクト(※8~9頁参照)みたいな大きな動きがほしいところです。

久津輪雅さん(以下久津輪) コウヤマキは長良川の上流域や東濃など、岐阜県内に自生しているところはあります。ただ、林業側は長良川におけるコウヤマキの特殊な需要を知らないし、船大工は市場の先の山の現状を知りません。舟の櫓に使うアカガシも無いと言われていますが、日本国内を探せばあるところにはあるはず。例えば、飛騨春慶の職人から「曲げわっぱにつかう桜の皮がなくて東北から取り寄せている」と聞きましたが、林業関係者に伝えたら県内でも桜は手に入るようになりました。森に携

わる人から、材を流通する人、物を作る人の間で情報が断絶している。今「つなぐ人」が必要なのではないのでしょうか。

蒲 レッドデータだと思っているものが、実はそうではないこともあるんですか？

久津輪 そうですね。調べてみると危機度が下がるものもあるかもしれません。この結果をみんなで共有し、危機度を下げていく努力をすることが大切です。

蒲 今回の調査の中で、和紙業界では産地の垣根を超え全国手漉和紙用具製作技術保存会を設立したことを知りました。こういう動きが持続可能な仕組みを作るのだと思います。長期的に考えると共通部品については他の地域も巻き込むとよいのかもしれないですね

久津輪 伝統技術を誰がどのように支えるかという話ですね。和紙は国の重要文化財・世界遺産になり、文化庁の予算が付きましました。漆は文化庁が文化財修復に使う漆は

国産のものとする方針を掲げ、作る人が増えています。つまり、これらは税金で支えようという流れです。ただ、これには弱点があって、鵜飼船は文化財だから守るけど、漁船は文化財ではないという理由で守られなくなってしまう。全てを税金で守ることはできないんです。経済で回していく、産業として成り立たせるのも大切です。両面から考えて行かないとダメですね。

平工 海の漁師は新規就業者へのサポートが手厚いです。河川の漁協もやればいいのに、なぜやらないのでしょうか。この地域の漁協に入ったら誰かに教わるわけでもなく自分がすべて。今までは漁場のコミュニティなどがあったのでよかったが、口伝だし…。プログラム作るの簡単だと思う。ノウハウがないのか？

久津輪 農業もやっていますよね。岐阜は林業も手厚くやっていますよ。

蒲 川漁師を育てなければいけないという命題がなかったのでしょうか？

久津輪 手仕事の分野には国・行政が組織的に育成する仕組みは無いのが現状です。鍛冶屋、傘屋、船大工などは学校がなく、いまだに徒弟制のままが多いです。漁業は、海の漁師には支援があるのに川漁師にはなぜ支援がないのかを聞いてみるといいかもしれません。まず公的な制度で使えるものは使いながら、官民が連携して育てる仕組みを作る必要があります。

蒲 市場では売れないけど価値を認められ文化財になるものも存在しますが、木造の漁船、川漁師、提灯は新しい市場を作らないと、行政は動かないと思うのですが……。

久津輪 船は漁業の需要もあるけれど、観光向けに作っていかないと残らないだろうと思います。作って楽しむ、使って楽しむ、乗って楽しむ、それらを軌道に乗せていく必要があります。手仕事の工芸品の需要は、第三次産業にシフトすると感じています。

平工 長良川は船で遊ぶ最高の舞台だから、レジャーとして木造船を使うのはいいですね。今までも木の舟で合流するとお客様に喜ばれるという経験をしています。

久津輪 コウヤマキSUPとかどうでしょうか。木造船も同じ形をずっと残そうとするのではなく、もっと進化する余地があるはず。それは民間が頑張らないと。行政にはできないことですから。

蒲 長良川流域文化を持続可能にしていきたいのですが、どういう形態の組織で動くといいのでしょうか？今はどの分野も新しい人を育成しても受けれる余裕がない状況にあります。出口のデザインは大切ですね。産業側に受け皿がないなら、それ以外も併せて生計を立てられるような。

久津輪 大きな仕組みが必要ですね。今は職人育成を現場の職人さんに丸投げしている状況ですよ。技術は師匠が教えられますが、師匠以外に見習いの人を支える人や機関が必要です。最近の例では、鵜飼の鵜匠たちで作る岐阜長良川鵜飼保存会が舟大工の後継者を育て始めたのですが、事務局が岐阜市役所に置かれていて、市役所OBの方が育成事業を支えています。

蒲 経済的な部分で難しい面もありますよね。

久津輪 木工の分野でもそうですが、生活していくのに必要な収入を1つのことで賄えない状況にあります。副業をいかに作れるか。森林文化アカデミーの卒業生にも、仕事の紹介をしたりしています。最近の例として、アウトドア用品の販売会社から流行りのアウトドアサウナ用チェアを開発したいと相談があり、郡上で踊り下駄を作っている卒業生を紹介しました。彼が郡上下駄のシーズンオフに作るヒノキのチェアは、いまその会社で売られています。小さい仕事をあっせんするハブみたいな人が必要です。

同様のことを進めている良い事例で「広葉樹活用コンシェルジュ」がありますよ。飛騨市と民間企業であるヒダクマの両輪で運営しています。地域おこし協力隊※の人が林業会社、製材会社、木工会社など木に関するあらゆる分野に行き、その人が広葉樹の需要と供給のきめ細かな情報をつないでいます。

平工 僕は今「天然鮎コンシェルジュ」という肩書でも活動をしています。それと同じかもしれません。漁の現場、漁協、卸売市場、小さな漁協などあらゆるネットワークを活用して仕事をしています。同時に漁師をやるのは大変ですが、それが強みだと思っています。そして、その役割の重要性をとっても感じています。

久津輪 工芸はモノづくりがわかっていないとできない。

蒲 どの分野も公的な支援と、民間で市場を作っていくこと、さらに生計を支える細かなサポートが必要だということが見えてきた気がします。

※地域おこし協力隊：人口減少や高齢化等の進行が著しい地域において、地域外の人材を積極的に誘致し、その定住・定着を図ることで、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とする国の取り組みです。